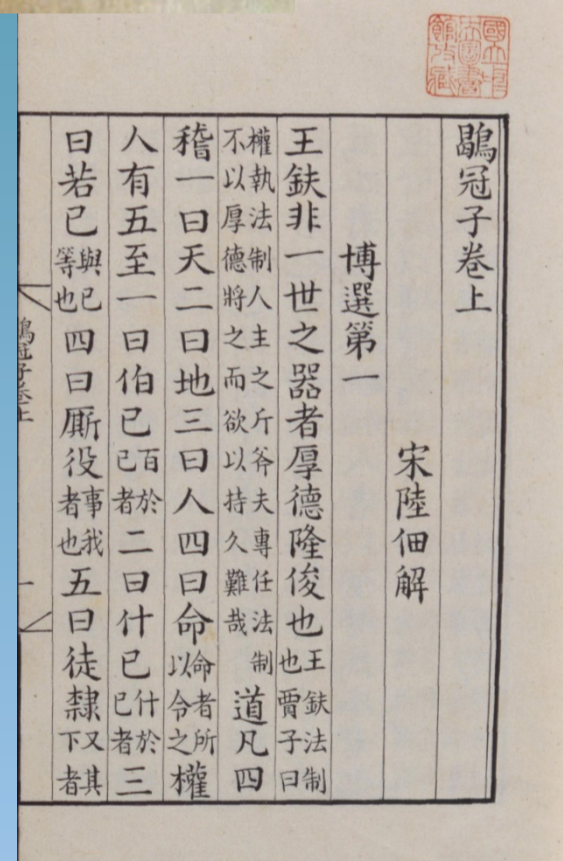
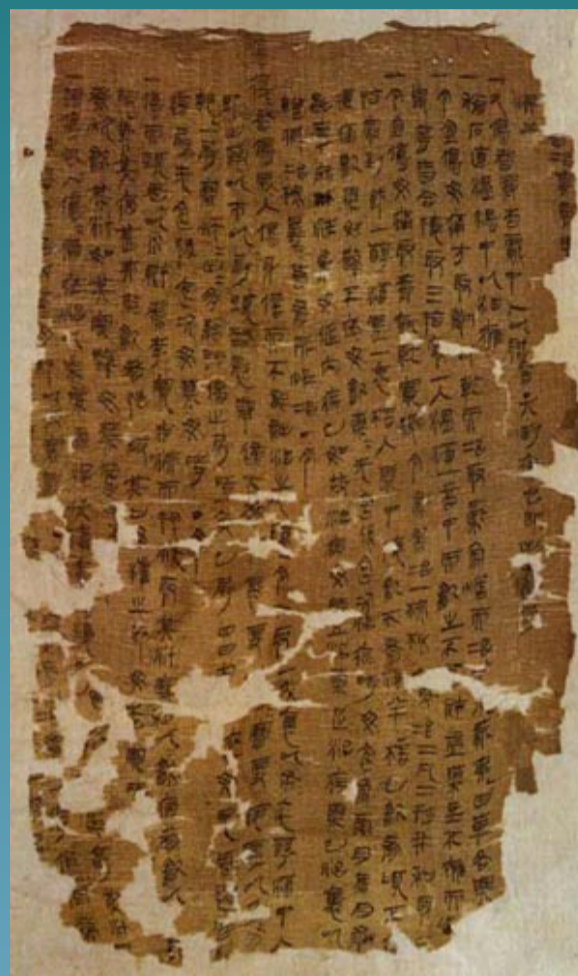


〈東文研・ASNET共催セミナー〉 『鶡冠子』と戦國黄老学

Heguanzi 《鶡冠子》 and the Huang-lao school of the Warring States Period

黄老の学の代表作の一つとされる『鶡冠子(かっかんし)』は、完璧に近い哲学体系だけではなく、その文章もよく練られていて鋭い。しかし、異なる地域と学派因子が混雑しているため、他の諸子と比較して研究する必要がある。『鶡冠子』は同時期の伝世・出土文献と密接に関係している。そのうち、「稷下(しょくか)の学士と齐学」・「『黄帝書』『淮南子』と楚文化」・「『荀子』」という3つの論題が最も議論に値する。特に『荀子』は『鶡冠子』と同じように、複数の地域文化(齐・楚・三晋)を背景としている。



- ◆ 日時：2016年12月8日(木) 17:00-18:00
- ◆ 報告者：雷欣翰氏(東京大学東洋文化研究所・訪問研究員)
- ◆ コメント：平勢隆郎氏(東京大学東洋文化研究所・教授)
- ◆ 会場：東京大学 本郷キャンパス内 東洋文化研究所 1F ロビー

※ 報告は日本語で行われます。



東京大学
日本・アジアに関する教育研究ネットワーク
Network for Education and Research on Asia

